



令和3年度(2021年度)学校教育目標

自ら学び、心豊かに、たくましく未来を切り拓く生徒の育成



校訓【自主・友愛・健康】

玉名市立天水中学校だより 第10号

6月は「心のきずなを深める月間」

—いじめを許さない学校・学級を目指して

部落差別のない社会を実現するために

「熊本県部落差別の解消の推進に関する条例」

が施行されています【令和2年(2020年)6月29日】



熊本県人権啓発
キャラクター・コッコロ

熊本県は、平成7年(1995年)に「熊本県部落差別事象の発生の防止及び調査の規制に関する条例」を制定し、結婚や就職に際しての部落差別の発生を防止する取組を行ってきました。近年では、情報化の進展に伴い、部落差別を取り巻く状況も変化しています。平成28年(2016年)には、「部落差別の解消の推進に関する法律」も制定されましたが、県内においても、部落差別はなくなっていない。

これらのことから、部落差別の解消を推進し、部落差別のない社会を実現するために、この条例を全部改正し、「熊本県部落差別の解消の推進に関する条例」が制定されています。

条例の施行から今日でちょうど1年となります。部落差別について正しく理解するとともに、自らの問題としてとらえ、具体的な行動につなげていくことが大切です。「部落差別のない社会」の実現に向けて、私たちみんなで取り組んでいきましょう。

新型コロナウイルス感染症に関わる人権問題

「新型コロナウイルス感染症対策分科会 偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ」が議論の概要をまとめています(令和2年11月)。それによれば、差別的な言動の抑止に直接的な効果が期待できる知識として、「新型コロナウイルス感染症は気を付けても誰でも感染する可能性がある」、「個人の感染やクラスター発生の原因特定は非常に困難である」、「科学的根拠の乏しい過度な対応は行わなくてよい」、などがあります。

感染症リスクに関する正しい知識が、できるだけ多くの市民に共有されることが必要です。これは、ハンセン病問題などの教訓を生かすことから重ねて考えると理解できるはずです。

国語の授業で人権学習・・・1年生「ちょっと立ち止まって」

1年生の国語の授業で教育実習生も扱った「ちょっと立ち止まって」という題材は、新しいものの見方を提示し、他の見方を試してみるものの大切さを考えることのできる説明的文章です。担当の国語科の先生とも確認したのですが、この文章を通して考えることは、説明的文章の論理展開や説得力といった基礎的・基本的な知識・技能のみならず、より広い視野からより深く考える思考力を育成する上でも有効です。また、自分の視点のみにとらわれることなく、多様な視点でものごとを考えることは、相手意識や他者意識を重視する視点を育成する上でも有効です。このことは教科学習の中における人権学習の一例であると言えます。本校の各教科担当の先生方は、こうした観点からも学習指導に取り組んでいます。

◇本校ホームページも随時更新しています。[天水中学校](#)で[検索](#)▶